

## 2.2 河川の維持の目的、種類、施行の場所

### 2.2.1 河川の維持の目的、種類、施行の場所

#### (1) 河川維持の目的

大手川、今福川の現在の良好な河川環境の維持を図るとともに、河道改修により設置される自然石積み護岸、堤防、根固め等の河川管理施設のもつ機能を極力損なわないよう維持管理や点検を実施する。また、今後の川づくりに資するために、基礎的なデータの蓄積を行っていく。

#### (2) 河川の維持の種類、施行の場所

##### ① 施設の維持管理について

洪水を安全に流下させるために、河川施設の定期的な点検を行い、危険箇所、老朽箇所の早期発見とその補修に努める。

##### ② 流下能力の維持

河道内の土砂量、堆積の状況の把握に努め、土砂堆積が著しく洪水の流下に障害となる場合は、魚類等の自然環境に配慮を行いながら河床掘削を行い、河積の確保を行うものとする。

また、縦断勾配の変化点や感潮区間等の土砂堆積が著しい区間は定期的に堆積土砂の撤去を行う。

##### ③ 自然環境の調査

河川の改修やその後の維持管理に活用するために、定期的に河川内の自然環境調査を実施し、データの蓄積に努める。

##### ④ 流水の正常な機能の維持

水量監視の基礎となる流量観測を実施し、流量データの蓄積を行っていく。